

旭小学校学校運営協議会

地域とともにある学校 あなたと さちを ひろげよう



1 コミュニティ・スクールの取組みを通して育てたい子供像

旭小学校は、平成28年度から学校運営協議会推進委員会を立ち上げ、文部科学省初等中等局コミュニティ・スクール推進員の今村隆信様のご指導の下、コミュニティ・スクールの基本概念を学び、熟議を通して、育てたい子供像を話し合ってきた。家庭、地域、学校、それぞれの立場から様々な意見を出し合い、平成29年度には、育てたい子供像を「失敗を恐れない子」「思いやりのある子」「地域を愛する子」とした。

失敗を恐れない子	思いやりのある子	地域を愛する子
精一杯、勉学に励む子 体力向上に努める子 夢を追い続ける子	命を大切にする子 相手の気持ちを考える子 人間味あふれる子	地域に貢献する子 地域行事に参加する子 地域を心のよりどころにする子

保護者、地域住民で育てたい子供像を共有するため、パンフレットを作成し配布した。

今年度は、学校運営協議会が中心となって、「挑戦プロジェクト」部会と「ふれ愛プロジェクト」部会を立ち上げ、育てたい子供像の具現化に向けて、協議を重ねている。



2 学校の特色を生かした取組み

(1) スポーツを通しての取組み

本校は、長年体力づくりに取り組んできた結果、平成27年度に県から「体力づくり奨励賞」を受けたことのある学校である。そのため、保護者、地域住民も体力づくりに関心があり、毎年、地域のロードレース大会が開催されている。そこで、スポーツを通して、コミュニティ・スクールとしての旭小学校を創ってこうと考え、これまで学校の敷地内で行っていた校内マラソン大会を校外での大会に変更した。子供達は、地域を走ることによって、これまでより多くの声援を受け、モチベーションの高まりに繋がるとともに、子供達が地域を走ることで地域住民の活力、活性化に繋がるというWIN-WINの関係が築けている。



また、本年度から新体力テスト実施に向けて、保護者や地域の方々と一緒に計測する機会を設けた。参加者の中には80歳を超える方もおられ、体力づくりに地域住民も関心をもっておられることがわかる。



さらに、運動会では、新たにコミュニティ種目として「ふれあい玉入れ」と「綱引き」を取り入れた。これまで観客だった保護者、地域住民が運動会に参加することで、昨年以上に盛り上がり、地域で創る運動会となった。



(2) 地域と共に学ぶ取組み

本校では、学校支援ボランティアを中心に、社会科や家庭科、総合的な学習の時間の学習支援を行う取組みを進めている。その結果、授業がより充実し、子供達の学びに向かう意欲につながっている。

いきいきサロン(4年生)



稲刈り体験(5年生)



茶道・華道クラブ



学校と保護者、地域住民が力を合わせることで、互いに信頼し合い、協力し合い、それぞれの立場で主体的に子供達の成長を支えていく学校づくりを行っている。

3 今後の方向性

(1) これまでの成果

- ・学校運営協議会委員による熟議で、育てたい子供像を焦点化することができた。
- ・校区に出たのロードレース大会、保護者、地域住民参加型の新体力テスト、運動会でのコミュニティ種目導入等、スポーツを通して、地域とのつながりが進んでいる。
- ・学校の教育方針を地域住民に理解していただくことで、学校支援ボランティアの人数が増加している。
- ・学校運営協議会委員に全町内会長に入っていたことで、学校の取組みを各町に伝えていただいている。

(2) 今後の課題

- ・保護者、地域住民のコミュニティ・スクールに対する理解・意識に温度差がある。ベクトルを合わせ、それぞれの立場で、子供達の成長を支えていく意識を高めていかなければならない。
- ・コミュニティ・スクールとしての取組みが、子供達の健やかな成長や、学力の向上につながることを、保護者、地域住民が実感できる仕組み作りをする必要がある。
- ・教員が変わっても、コミュニティ・スクールの方向性は変わらないよう、システム作りや土台作り、持続可能な仕組み作りをする必要がある。



来年度、旭小学校は創立50周年を迎える。コミュニティ・スクール旭小学校として迎える節目の年を、地域全体で祝う計画を進めている。

将来、子供達が旭小学校、地域で培ったアイデンティティを十分に発揮し、社会で活躍して欲しいと願っている。



- 1 A4 2枚、2段組で原稿を作成する。
- 2 各校の取組みについては、具体的な事項を掲載する。
- 3 写真等の掲載は可。ただし、掲載許可の確認を行うこと。
- 4 今後の方向性については、成果・課題を踏まえたものとする。